



家族に感謝、職場に感謝

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 松本 哲朗 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号丸越ビル6F
幹事 杉本 忠夫 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

インスピレーションになろう

<2018-19年度R.I.テーマ>
R.I.会長 パリー・ラシン

第1698回例会

職業奉仕月間

平成31年1月31日(木)

外部卓話

於 名古屋東急ホテル

出席計算数 47名中38名出席

出席率 80・85%

前々回出席率 78・26%

例会プログラム

★R財団ポール・ハリス・フェロー表彰

★内藤R財団・米山記念奨励学委員会

・2018年R財団及び米山記念

奨励学確定申告用領収書配布

★外部卓話

「ロータリーソング」

指 揮 者 鬼頭 茂成

ピアノ伴奏 富板 玲子

「ゲスト」

「会長挨拶」

「恵方巻」

「ピクチャー」

「卓話」

「花粉症のお話」

「耳鼻咽喉科主任教授」

「藤田医科大学」

「名古屋南RC」

中北 英孝さん

度會 俊宏さん

内藤 健晴さん

松本 哲朗

杉本 忠夫

尾上 昇

内藤 明

吉田 明

木村 光徳・佐々木 功

竹林 正人・高田 知史

高木 政義

吉田 隆彦

鬼頭 茂成

「ニコボックス」

内藤先生、2回目のお話し楽しみ

にしています。

内藤先生、卓話宜しくお話ししま

す。

内藤先生の卓話楽しみにしていま

す。

弟が卓話させて頂きます。宜しく

お願いします。

内藤先生、卓話よろしくお願いま

ます。

吉田 明夫・春日井和良

木村 光徳・佐々木 功

竹林 正人・高田 知史

高木 政義

昨日もスキーに行ってきました。

元気が何より。

宮古島ロータリークラブの例会に

出席してきました。

鬼頭 茂成

松本 哲朗

早いもので1月ももう今日で終

わりです。次回の例会は節分例会

ですが3日後の日曜日です。お

間違え無いようお願いします。

このところ

節分に丸のま

まの太巻きを

食へるとい

のが全国的な

風習になっ

てきました。

一応ルールがあ

る。



は東北東、龍泉寺です。

元々は江戸時代の末期に大阪の

船場で商売繁盛の祈願として始ま

ったようですが、明治時代になっ

てすたれたのを、1977年大阪

の海苔問屋の組合が海苔の販売促

進のため復活させました。今では

スーパーやコンビニでも売られる

ようになり、豆屋さんだけでなく

海苔屋さんも潤うようになったよ

うですが、このところ問題になっ

ているのは大量の食品ロスがで

ることです。賞味期限が長いバシ

ンタインチョコなど違い日持ち

がしないので売れ残れば廃棄せざるを得ません。売値もそれを見越した値段設定になっていると思

います。

無駄をなくすにはスーパー、コンビニを含め100%予約販売にする

が無駄はなくなるはずですが、我が家も予約しようかと尋ねてみた

のですが家で作るということでした。手間はかかりますが家で作れば無駄は

ありません。

皆さんもお願いして作っていただ

か、ご自分で作るかしていただ

けるとベストかと思

います。

卓話

「花粉症のお話」

藤田医科大学

耳鼻咽喉科主任教授

内藤 健晴さん

3年前の卓話では、「花粉の飛散

数と症状の関係」、「鼻つまりのメ

カニズム」、「黄砂の影響」、「治療

の簡単な紹介」をしました。前回、

時間の関係でまだお話できてい

なかったことを第2弾として「花粉

症の話2」と題してお話させてい

たきます。

まず最初に、「なぜこんなに花粉

症が増えてきてしまったのか?」

ということを科学的検証を元にお

話します。戦後経済復興のために

材木の需要が増え、産業活用しや

すいスキ、ヒノキの植林を国を挙

げて行いました。その結果、スキ、



ヒノキ花粉飛散数が増えたのが花粉症増加の大きな要因です。



次に、大気の汚染、特に自動車排気ガスによる汚染は二次的な原因となりました。そして感染症(結核や寄生虫)の減少が人間をアレルギーに傾きやすくしてしましました。それら人為的な理由で日本人の4人に1人が花粉症になってしまいました。

もう一つの話題は「自己防衛手段」についてです。私たちが医師は薬剤や手術で患者さんのお役に立つようにはしていますが、皆ご自身で日常で対応できる方法もあります。花粉飛散シーズンには外出時の花粉対策用眼鏡、マスク、帽子、外套衣の着用、帰宅後に花粉を屋内に持ち込まない、布団を屋外に干さない、空気清浄機使用、乾地療法、生活のリズムを整えるなど、自己防衛対策についてお話をしました。私のお話が皆様の健康にお役に立てば幸いです。

「R財団PRHF表彰
バッジの進呈」
ポール・ハリス・
フェロー
(2回目)
佐々木 功



その他・お知らせ

R-1会長からのメッセージ

2019年2月
18-19年度 R-1会長
ハリ・ラジソン

昨年、私は世界各地を旅する中で、地域に変革を巻き起こしている、数多くの活気にあふれた充実したクラブや地区を訪れました。例会に出席すると、彼らのエネルギーを感じ取るのができました。会員と知り合つて、世界を変える行動人であることが見て取れました。地域を訪れると、ロータリアンの奉仕活動の結果を見ることができました。

一方で、社交クラブと何ら変わらないロータリークラブも地域によってはありません。それでいてはいけません。しかし辛いなことに、どんなクラブでも再活性化できる単純なアプローチがありません。

「影響力が大きい奉仕プロジェクトを最低でも1件はやってみせましょう」これが私からすべてのロータリークラブへの挑戦状です。どのクラブにも、そうするだけの潜在力、リソースは備わっています。人ひとりの生活を根底から変える力があるのです。

それには何百万ドルもかかるわけではありません。私がこれまでに参加したプロジェクトの中でも最大級の変化をもたらしたあるプロジェクトでは、ハイチの助産婦たちにシープを1台寄贈しました。何かできることはないか彼女たちに聞いたところ、人里離れた地域に暮らす妊婦を訪問するための移動手段がない、というのがです。そこで私たちは、ピンク色に塗ってロータリーのロゴを描いたシープを提供しました。その3年後、彼女たちがどうしているか様子を見に、ふたたびハイチを訪れました。すると、みんな結果に大喜びしていました。その地域の母子の死亡率が50%も下がったそうです。これこそ、変化をもたらす奉仕です。

とはいっても、シープは永遠に走り続けるわけでもなく、8年現役を務めたその車はそろそろ引退の時期でした。そこで、今度はピンク色のランドクルーザーを購入。今でも現役で、妊婦健診を必要とする僻地に暮らす女性のもとに助産婦を送り届けています。

変化をもたらすプロジェクトとは一体どういふものなのでしょう。多額の資金が必要なわけではありませんが、人ひとりに働きかけ、地域に大きな影響をもたらすものでなくてはなりません。それが秘訣です。そのため、慎重な計画と徹底した調査が必要なのです。ですから、しっかりと調査を行い



ましょう。リソースを活用しましょう。影響力を高めてくれるパートナーを探しましょう。そして、行動を起こすのです。もちろん、強固なクラブに必要なものは奉仕活動だけではありません。人の心をつ

かむ講演者を擁し、指導者育成を行い、ロータリーアクトとインターアクトの参加を促し、会員に価値をもたらすし、ロータリーの行事に参加する理由を与えます。

変化をもたらす、よく組織だったクラブなら、ほかのことは自然とついてきます。会員の参加度は高まり、新会員もどんどん集まります。資金調達は楽になります。寄付金がこのように違いをもたらしているかが分かり、その団体が説明責任を果たしていることが分かる。人ひとりは積極的に寄付するものです。クラブは活力にあふれ、重要性が高まり、命の通ったものになります。そして、クラブ

会員にとっても、クラブが奉仕する地域にとっても、そのクラブはインスピレーションとなるのです。(国際ロータリーPRHより)

2月21日(木)例会の案内

例会変更 2月18日(月)

西名古屋分区分区M

於 名古屋観光ホテル

ホスト: 名古屋中PRC

受付15時00分 開会16時00分

懇親会18時30分より

公共イメージ向上委員会

前田 隆久・杉浦 令淑
川畑 博敏・竹林 正人
*本文は、原則 頂いた
原稿を転載しています。